實性

平成二十六年　第四号　秋彼岸発行

秋のお彼岸のご案内

「彼岸」とは、「向こう側の岸」という意味です。向こう側の岸というのは、争いや差別のない平和な仏様の世界のことです。

それに比べて、私たちの住むこの世界には、戦争や災害、飢え死にする人も絶えません。それを「こちら側の岸」「此岸」（しがん）といいます。

お釈迦様は、こちらの岸から向こう側の岸に行くにはどうしたらよいかということを教えられました。それが「六波羅蜜」です。

「六波羅蜜」とは、

一、布施（ふせ）　物に執着しないこと
一、持戒（じかい）　規律を守ること
一、忍辱（にんにく）　耐え忍ぶこと
一、精進（しょうじん）　努力すること
一、禅定（ぜんじょう）　心を静に保つこと
一、智恵（ちえ）　よく考えること

これを実践することが彼岸の道です。

日輪は、真東から昇って真西に沈む、昼夜の時間が同じ長さの春分・秋分の前後の三日間、一年でいちばん過ごしやすいこのとき、ご先祖様に感謝の手を合わせたいものです。

彼岸会法要

お中日

●九月二十三日（火）午前十一時より

お彼岸入り　九月　二十日（土）
お彼岸中日　九月二十三日（火）
お彼岸明け　九月二十六日（金）

※お彼岸のお塔婆はお早めにお申込ください。

盂蘭盆会ご報告

七月十三日（日）・八月十三日（水）の両日、盂蘭盆会法要が厳修されました。

七月は百三十名様、八月は、十時、十一時半、一時半の三回に百八十名様のご参加をいただきました。

盂蘭盆会法要では、「絵で見る日常勤行式」を檀信徒の皆様とご一緒にお唱えいたしました。

【懺悔偈】

我昔所造諸悪業　皆由無始貪瞋痴
従身語意之所生　一切我今皆懺悔

訓読で読みますと

我れ昔より造る所の諸の悪業は
皆無始の貪瞋痴に由る
身語意より生ずる所なり
一切我れ今皆懺悔したてまつる

意味としては

仏様の御前において深く反省の意を表するお経でございます。

過去から今日まで、私たちは数えきれないほどの罪をおかしました。それは、私の中の「むさぼり」「いかり」「おろかさ」からくるものです。身・口・心から、知らず知らず無意識のうちに出た罪でもあります。私は今、一切のすべてを懺悔反省いたします。この懺悔は、仏教のみならず、あらゆる宗教に通ずるものです。前に進むには大切なお経です。

毎年、お盆回向には、お弁当をお持ち帰りいただいておりましたが、季節柄、あぶないので、お菓子に代えさせていただき、また、「ほうずき提灯」も燃えてしまい危険となりましたので、控えさせていただきました。

ご参加のお家には「野菜のボールペン」今回は「ねぎ」をお渡ししました。お子様には、好評の「ハト型風船」を差し上げました。是非、お子様のご参加をお待ちしております。

ご案内（法要中について）

お施餓鬼会等の法要中、難しくわかりにくいお経がたくさん出てまいります。

そんな時には、十念（十遍のお念仏）の時に、合掌いただき、お念仏をご一緒にお唱えいただきたく存じます。

私語等がありますと、せっかくのお経が御仏に届きにくくなります。

長くても、一時間程でございますので、皆様のまごころをお寄せ下さい。

御仏具料について

皆様から御奉納いただいております『御仏具料』とは御法要時の「御布施」とは異なります。

御本尊様仏具、御本堂、客殿、境内それぞれの整備のためにお納めいただいたものです。

仏具、お衣、お袈裟などの品々を御奉納いただくこともございます。これらを感謝録として掲載させていただいております。

皆様からの「御布施」は、公表いたしておりません。「御布施」とは異なりますので何卒ご理解ください。

實性寺の彼岸花（ひがんばな）

お彼岸の頃、開花するので彼岸花と呼ばれています。またマンジュシャゲ（曼珠沙華）とも呼ばれ梵語「赤い花・天上の花」の意味でおめでたい兆しとされています。

境内の花

第十六回 實性寺寄席

実性寺寄席を左記のように開催致します。ご家族、ご近所、お知り合いの方など、お誘い合わせのうえご来寺下さい。

●日　時　十月二十六日（日）
開　場　午後五時三十分
開　演　午後六時
会　場　實性寺本堂
木戸銭　六百円

柳家我太楼師匠

☆ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くても十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確ですのでご利用下さい。

ファックス番号　０３（３８８３）３２２７
振　替　口　座　００１９０―６―２５８８７３
※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061　東京都足立区花畑三―十七―十八
電話　０３（３８８３）８８６６
浄土宗　實性寺
http://www.jittushoji.com